

第6次 地域農業振興計画書

令和元年度～令和3年度

南筑後農業協同組合



あいさつ

当組合は、「くらしに豊かさ、心にやすらぎ、地域に根差したＪＡみなみ筑後」のスローガンのもと、平成 30 年度までの第 5 次地域農業振興計画を策定・実践し、地域の農業振興に努めてまいりました。

現在、農業を取り巻く情勢は、米国を除く環太平洋経済連携協定「TPP11」が昨年度末に発効され農畜産物の関税問題や、日欧 EPA や TAG（物品貿易協定）など国内農業への影響について注視する必要があります。

また、国内においては農業就業者の高齢化と減少、米政策見直し（平成 30 年産から主食用米の生産数量目標の配分及び米の直接支払交付金の廃止）や種子法廃止など農業を取り巻く環境は激変しています。

このような情勢の中、地域農業振興計画の柱として以下の項目を基本方針と決めました。これらの厳しい環境を見極め、その環境に対応しながらこれらの基本方針を実践することで地域の農業とくらしを未来へつなぎ、もって地域農業を次世代に引き継ぐ環境づくりと社会的な貢献を行っていきます。

〇テーマ

地域の農業とくらしを未来につなぐ

〇基本方針

1. 農業者の所得増大
2. 農業生産の拡大
3. 地域の活性化

現在も、組合員皆様との対話により得られた幅広いご意見・ご要望を取り入れたＪＡの自己改革を実践しておりますが、これが更に地域農業の将来の希望につながるよう関係機関と連携して具体的な実行計画を策定実践してまいります。また、今回策定した「第 6 次地域農業振興計画」については、ＪＡの中期経営計画（3 ヶ年）と整合性をとるため、第 5 次地域農業振興計画を 1 年延長し令和元年～令和 3 年の 3 ヶ年としています。

最後に本計画の策定にあたりまして、ご指導、ご協力を賜りました関係機関をはじめ関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

令和元年 5 月 13 日
南筑後農業協同組合
代表理事組合長

乗富 幸雄



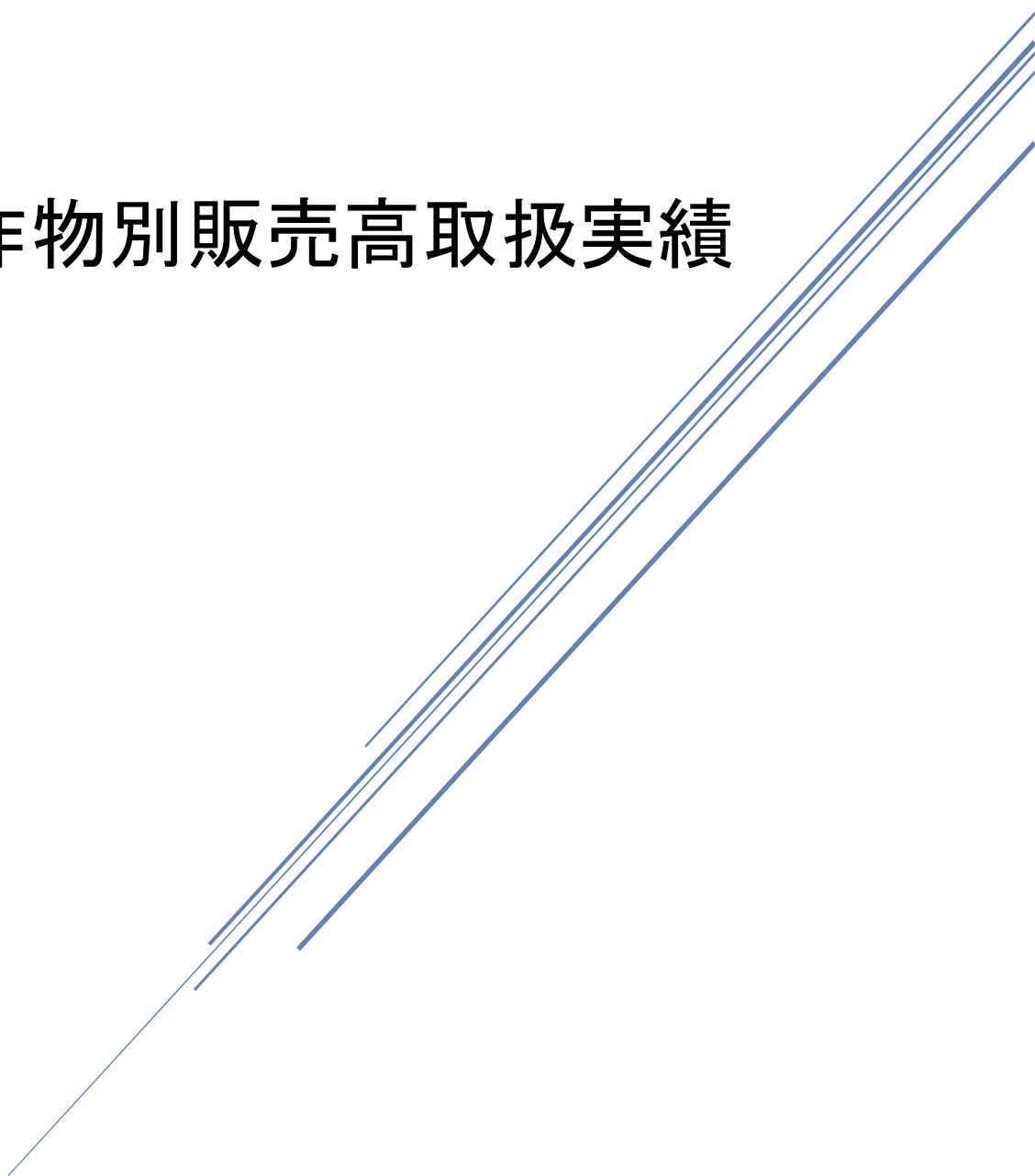
第 6 次地域農業振興計画 目次

■ 農業を取り巻く情勢	・ ・ ・ ・ ・ 1
■ J Aみなみ筑後管内の概況	・ ・ ・ ・ ・ 3
■ 作物別販売高取扱実績	・ ・ ・ ・ ・ 5
■ 地域の農業とくらしを未来につなぐ	・ ・ ・ ・ ・ 6
■ 作物別販売高目標	・ ・ ・ ・ ・ 11
■ 品目別の課題と振興方策	・ ・ ・ ・ ・ 12
①普通作・畜産	・ ・ ・ ・ ・ 13～15
②野菜・花き	・ ・ ・ ・ ・ 16～26
③果樹	・ ・ ・ ・ ・ 27～31
■ 経営モデル及び経営指標	・ ・ ・ ・ ・ 32～37
■ 実践取組体制	・ ・ ・ ・ ・ 38～40

■ 農業を取り巻く情勢

■ J A みなみ筑後管内の概況

■ 作物別販売高取扱実績



農業を取り巻く情勢

農業は生命維持に不可欠な食糧等を供給するとともに、地域経済や文化を支えている極めて重要な産業です。しかし、今日の農業は、生産基盤の脆弱化や貿易自由化等によって輸入農産物が増加する一方で、国内生産が縮小し、農業経営は厳しい状況が続いており、併せて農業従事者の高齢化も進行しています。

農業が地域とともに持続的に発展するための方策を実現するため、農業の生産構造や貿易に今後大きな影響を及ぼす可能性がある4つの項目について整理します。

1. 農業の現状

農業に不可欠な生産要素である土地(耕地面積)は減少傾向で推移している。一方で、販売農家数がそれを上回るペースで減少していることから、販売農家1戸当たりの経営耕地面積は拡大し労力不足が発生しています。また、農業経営においては、農産物価格は上昇しているものの、生産資材価格がそれ以上に上昇していることから、厳しい経営環境が続いています。

2. 米政策の見直し

政府は産業競争力会議等の議論を受け、平成30年産から主食用米の生産数量目標の配分及び米の直接支払交付金(10a当たり7,500円)を廃止し、非主食用米(飼料用米)等の転作作物に対する交付金を拡充し収量に応じて交付する仕組みへの見直しを行っています。

3. 農畜産物の流通

農畜産物の輸送の大部分を担うトラック輸送については、ドライバーの長時間労働や低賃金等の労働環境から深刻な人手不足となっており、特に農畜産物については、待機時間の発生、手作業による荷積み荷降ろし、厳しい品質管理や運行管理等によりトラックの確保が難しい状況になっています。

4. 国際貿易交渉

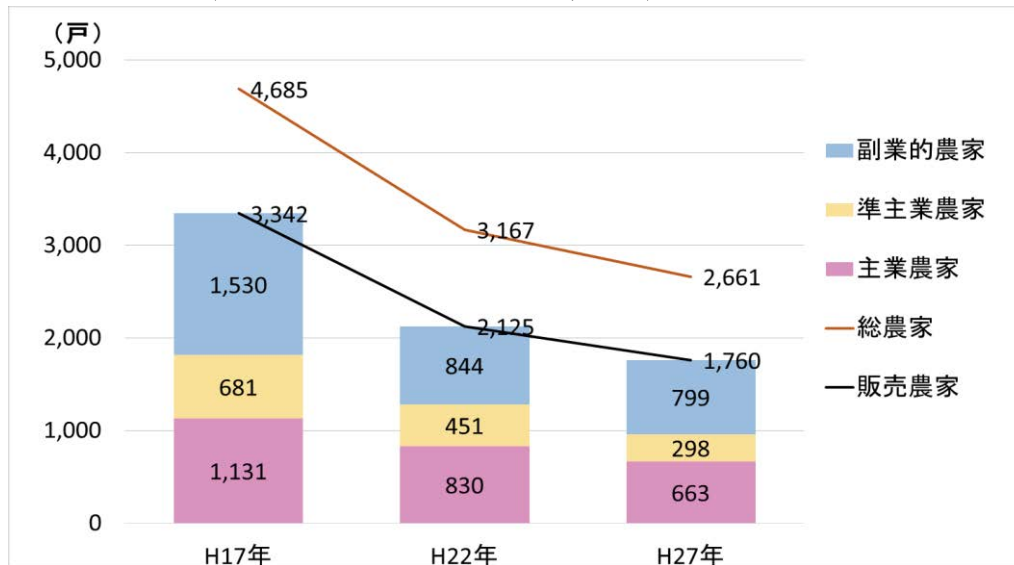
政府は農家の暮らしを守るため「農産物5品目」は関税撤廃の例外にする方針だが、TPP11をはじめとするFTA・EPA等に参加する国々は、これらの品目の輸出競争力が強く、日本への輸出が多い国が参加しているため、国境措置が削減されれば、生産面積の縮小等、農業への多大な影響が懸念されます。

J Aみなみ筑後管内の概況

J Aみなみ筑後は、福岡県の最南端に位置し、管内は2市（みやま市・大牟田市）で構成しており、農業地帯区分としては、東部に山間丘陵の中山間地帯、北西部に矢部川が流れ有明海に面した平坦地帯、南部の都市近郊地帯の3つに大別されます。水稻・大豆・麦の土地利用型農業を軸とした果樹・園芸作物・畜産・特産作物等の産地を形成しています。

農家戸数の推移

総農家数は10年間で2,024戸（43%）、販売農家は1,582戸（47%）減少しています。



資料：農業センサスより

- 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は、農産物販売金額が50万以上の農家
- 主業農家：農業所得が主（農家所得の50%以上が農業所得）で、65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家
- 準主業農家：農外所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家
- 副業的農家：65歳未満の農業従事60日以上の方がいない農家

農業就業人口（販売農家）の推移

新規就農者が少ないため、基幹的農業者の65歳以上の占める割合が56%となっています。

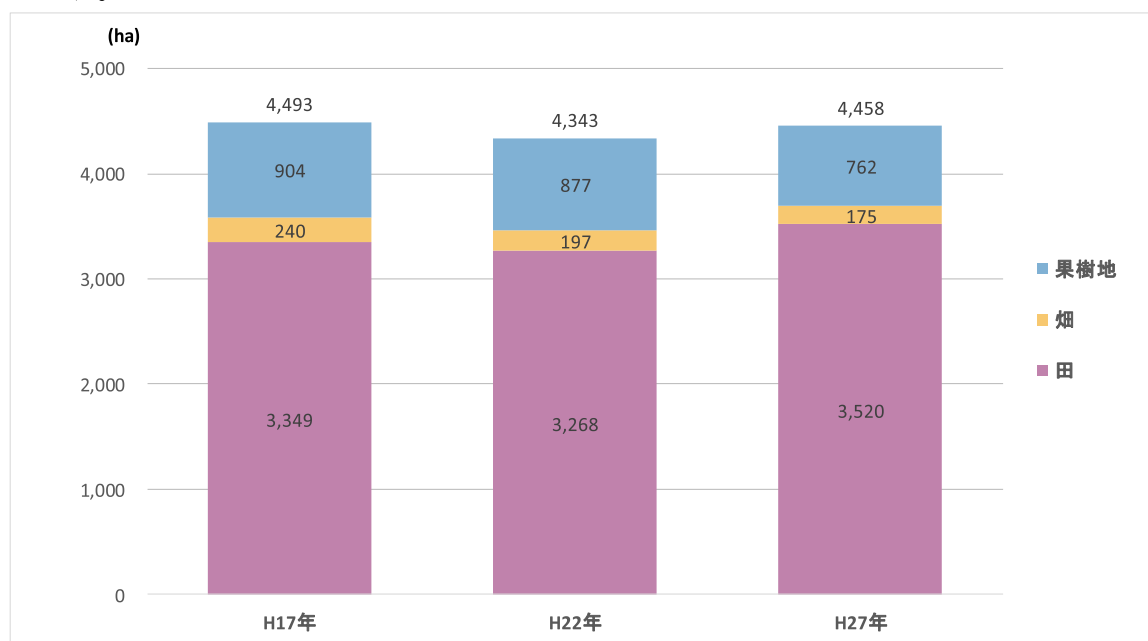


資料：農業センサスより

（注）四捨五入により表示している数値の合計が合わない場合があります。

耕地面積の推移

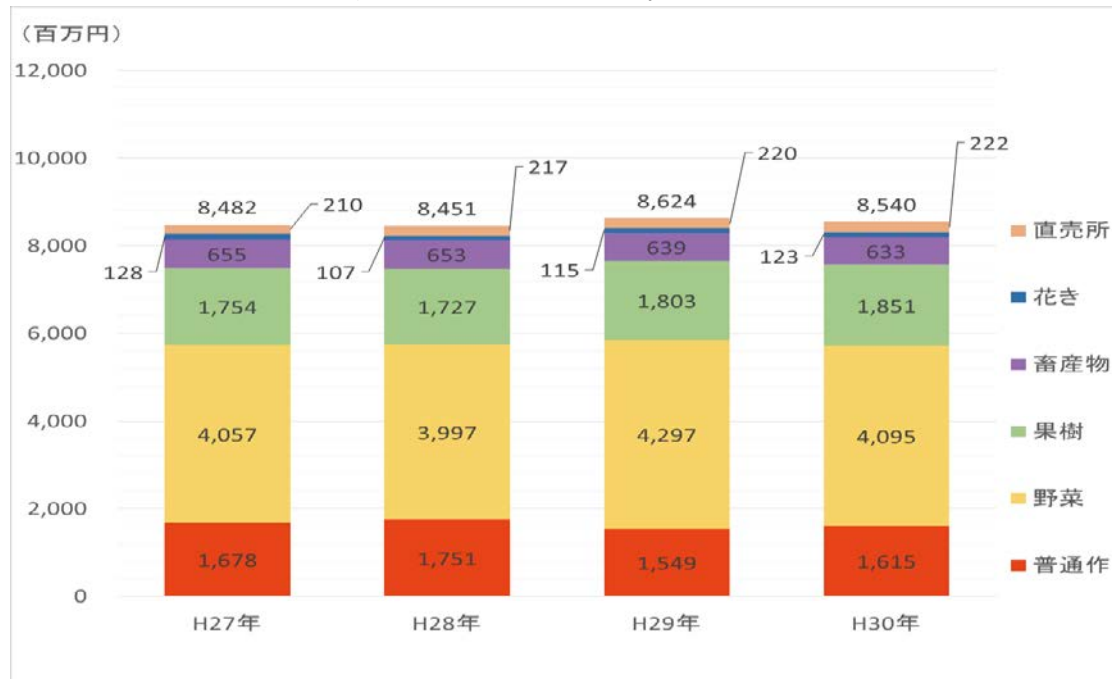
平成 27 年の耕地面積は、4,458ha となっており、高齢化に伴う離農・耕作放棄地があり、平成 17 年より 35ha (0.8%) 減少しているものの、平成 22 年に比べて 115ha (2.6%) 増加しています。



資料：農業センサスより

JA みなみ筑後販売高の推移

平成 30 年の販売高は、8,540 百万円となっており、契約取引等の取り組みにより近年では大きな変動はなく安定した販売となっています。



資料：総代会資料より

(注) 四捨五入により表示している数値の合計が合わない場合があります。

作物別販売高取扱実績

(4月～3月)

(単位：千円)

	作物名	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 見込
普通作・畜産	水 稲	969,776	1,163,882	1,000,268	1,012,199
	麦	385,262	305,360	286,058	361,869
	大 豆	292,690	240,991	192,361	189,034
	その他穀物	30,102	40,386	70,765	51,629
	肥育牛	138,023	153,443	132,818	148,239
	S P F 豚	517,286	499,145	506,429	484,980
	農畜産計	2,333,139	2,403,207	2,188,699	2,247,950
野菜・花き	な す	2,166,385	2,252,346	2,362,549	2,363,341
	いちご	542,028	629,362	689,089	669,330
	セロリ	766,030	626,937	707,609	602,538
	アスパラガス	155,787	153,589	154,201	173,139
	とまと	93,184	76,616	57,394	39,438
	きゅうり	49,236	62,182	65,374	62,369
	トウモロコシ	9,061	8,971	9,774	9,397
	たけのこ	248,993	156,994	216,664	141,507
	高 菜	7,939	9,401	6,323	5,019
	その他野菜類	18,441	20,703	27,680	29,181
	花 き	127,675	106,832	114,901	123,483
	野菜・花き計	4,184,759	4,103,933	4,411,558	4,218,742
果樹	柑橘	1,286,717	1,305,988	1,344,654	1,371,336
	すもも	138,135	127,706	118,523	140,815
	ぶどう	231,348	210,109	236,492	236,826
	キウイフルーツ	74,979	59,158	76,673	78,851
	いちじく	12,307	11,002	11,756	9,076
	その他果樹	10,264	13,235	15,355	14,030
	果樹計	1,753,750	1,727,198	1,803,453	1,850,934
直売所		210,364	217,105	219,797	222,334
合計		8,482,012	8,451,443	8,623,507	8,539,960

(注) 千円未満を切り捨てて表示しているため合計が一致しない場合があります。

(注) SPF豚とは、特定病原菌を持たない豚のことです。

■地域の農業とくらしを 未来につなぐ

1. 農業者の所得増大
2. 農業生産の拡大
3. 地域の活性化

■作物別販売高目標

地域の農業とくらしを未来につなぐ

基本方針

農業・農協は、激動の時代を迎えております。この厳しい環境を見極めその環境に対応しながら下記基本方針を実践することで地域の農業とくらしを未来へつなぎ、地域農業を次世代に引き継ぐ環境づくりと社会的な貢献を行ってまいります。

《地域農業成長戦略の3本柱》

1. 農業者の所得増大

- (1) 新技術・優良品種の導入
- (2) 南筑後ブランド力の強化
- (3) 生産コストの削減

2. 農業生産の拡大

- (1) 労働力の確保
- (2) 土地利用型法人経営の向上
- (3) 生産基盤となる農地・園地・ハウスの整備と流動化
- (4) 新規就農者の育成

3. 地域の活性化

- (1) 地域組織との連携
- (2) 次世代との食農交流
- (3) 活気ある直売所の展開

1. 農業者の所得増大



(1) 新技術・優良品種の導入

- ①日中加温技術・炭酸ガス発生装置の普及・確立
- ②ハウス内環境測定装置試験の実施
- ③優良品種の普及拡大
- ④県推奨品種の普及拡大

(2) 南筑後ブランド力の強化

- ①市場への安定供給及び出荷量増減等の産地情報の発信
- ②重点市場を軸とした総合的な販売
- ③予冷施設を新設し、衛生面や品質管理の徹底
- ④ふるさと納税の対応による産地アピール・消費拡大
- ⑤適正な生産工程管理の指導・徹底



(3) 生産コストの削減

- ①土壌分析結果に基づいた適正な施肥管理の実施
- ②天敵・交信攪乱剤の導入による薬剤散布削減
- ③歩行式及び自走式防除機導入推進による散布労力の軽減
- ④水稻密苗の推進による生産コスト低減
- ⑤補助事業を活用したハウス施設の初期コスト低減



2. 農業生産の拡大

(1) 労働力の確保

- ①パッケージセンター利用による、生産面積拡大や高齢者の栽培延長
- ②雇用支援企業等との連携
- ③土地利用型法人の農作業共同化
- ④無料職業紹介所の拡充
- ⑤高齢農業者への田植え、庭先集荷、ハウスビニール展張の支援

(2) 土地利用型法人経営の向上

- ①法人間ネットワークの構築
- ②営農法人へ園芸作物の推進
- ③米・大豆のローテーション作付けの推進



(3) 生産基盤となる農地・園地・ハウスの整備と流動化

- ①補助事業を活用した生産環境の改善整備
- ②遊休地の情報提供及び生産組織内調整での流動化
- ③有休施設・園地流動化登録制度の構築

(4) 新規就農者の育成

- ①関係機関との連携による情報提供と窓口機能の充実
- ②生産組織との連携によるトレーナー制度等の相談体制の充実
- ③就農希望者の研修受入れ体制の整備

3. 地域の活性化

(1) 地域組織との連携

- ①農商工が連携した6次化商品の開発
- ②農商工等が行うイベントへの共催
- ③総合的な鳥獣被害防止対策の連携
- ④資源循環型に即した取り組みの実施



(2) 次世代との食農交流

- ①管内小学校との田んぼの教室・バケツ稲の取り組み支援
- ②小学生を対象とした社会科見学等への対応
- ③消費者交流会等による野菜・米づくり体験を通じた地域との連携
- ④ホームページを活用したイベント・農産物の情報発信



(3) 活気ある直売所の展開

- ①地域住民から慕われる店舗づくり
- ②地域特産物の商品確保
- ③贈答用特産物の販売強化



作物別販売高目標

(4月～3月)
(単位：数量 t、金額千円)

	作物名	令和元年度目標		令和2年度目標		令和3年度目標	
		販売数量	販売金額	販売数量	販売金額	販売数量	販売金額
普通作・畜産	水 稲	4,800	1,080,000	4,800	1,080,000	4,800	1,080,000
	麦	7,000	300,000	7,230	330,000	7,430	344,000
	大 豆	1,290	190,000	1,360	190,000	1,440	190,000
	その他穀物	2,250	45,000	2,250	45,000	2,250	45,000
	肥育牛(頭)	120	130,000	90	100,000	80	86,000
	S P F豚(頭)	14,000	455,000	14,000	455,000	14,000	455,000
	農畜産計	29,460	2,200,000	29,730	2,200,000	30,000	2,200,000
野菜・花き	な す	6,200	2,490,000	6,200	2,490,000	6,200	2,490,000
	いちご	559	702,000	598	751,000	598	751,000
	セロリ	2,950	737,000	3,050	746,000	3,150	755,000
	アスパラガス	184	190,000	195	202,000	209	216,000
	とまと	157	42,000	180	49,000	202	55,000
	きゅうり	168	42,000	206	49,000	224	52,000
	トウモロコシ	28	10,000	29	10,500	30	11,000
	たけのこ	370	184,000	400	193,100	350	174,900
	高 菜	144	5,700	171	6,800	225	9,000
	ニンニク	8	4,800	14	8,400	21	12,600
	その他野菜類	43	26,700	43	26,700	43	26,700
	花き(千本)	2,500	134,000	2,500	134,000	2,500	134,000
	野菜・花き計	13,311	4,568,200	13,586	4,666,500	13,752	4,687,200
果樹	柑 橘	7,900	1,459,000	7,900	1,469,000	7,900	1,478,000
	ぶどう	267	231,000	267	238,000	267	237,000
	すもも	280	140,000	280	147,000	280	147,000
	キウイフルーツ	240	81,000	240	85,000	240	88,000
	いちじく	18	11,000	19	11,700	19	11,800
	その他果樹	40	15,300	40	15,300	40	15,300
	果樹計	8,745	1,937,300	8,746	1,966,000	8,746	1,977,100
直売所		—	305,000	—	328,000	—	358,000
合計		51,516	9,010,500	52,062	9,160,500	52,498	9,222,300

(注)肥育、花きは販売数量の単位が違うため計には含まない。

(注)なす・柑橘については、出荷量で記載しています。

■品目別の課題と振興方策

『品目名』

水 稲	・ ・ 13
麦・大豆	・ ・ 14
畜 産	・ ・ 15
冬春なす	・ ・ 16
いちご	・ ・ 17
セロリ	・ ・ 18
アスパラガス	・ ・ 19
とまと	・ ・ 20
きゅうり	・ ・ 21
トウモロコシ	・ ・ 22
たけのこ	・ ・ 23
高 菜	・ ・ 24
その他野菜	・ ・ 25
花 き	・ ・ 26
柑 橘	・ ・ 27
ぶどう	・ ・ 28
すもも	・ ・ 29
キウイフルーツ	・ ・ 30
いちじく	・ ・ 31

【水 稲】



○現状・課題

多種多様な需要がある中で、米消費における業務用米の比率が高くなってきています。

また、福岡県は生産されるお米の量より、消費されるお米の量が多いことから、ブランド強化と地産地消で需要に応じた品種への転換が必要です。

○将来の方向

望まれる米づくりを基本として需要に応じた品種への誘導と、機械の能力に応じた適正面積での安定生産の確立を図ります。

○具体的な取り組み方策

1. 品質、生産量の向上に取り組めます。
 - (1) 現地巡回の徹底により生育状況を把握し、適期防除・作業管理情報の発信強化
 - (2) 地域単位や法人単位での高収量者の栽培分析を実施し、それを基に栽培指針の策定と指導の徹底
2. 省力・低コスト栽培に取り組めます。
 - (1) 密播・密苗など箱数を減らし、育苗コストの軽減と良質苗生産
 - (2) ウンカ類に長い残効性を有する箱施薬剤の利用による総合的な防除コストの低減
 - (3) 散布労力軽減剤(豆つぶ剤など)の推進
 - (4) バイオ液肥の活用による肥料コスト低減
 - (5) 地力向上のため、土壌改良材・有機物(わらすき込み)の投入推進
 - (6) 部分浅耕一工程播種による乾田直播栽培面積の拡大
3. 付加価値の高い安全安心な農産物生産に取り組めます。
 - (1) 「実りつくし」の栽培技術確立と、作付け拡大に向けた推進
 - (2) ふくおかエコ農産物(減農薬・減化学肥料栽培)などの環境保全型農業の確立
 - (3) 米トレーサビリティ制度の徹底による「食の安全・安心」の確立
 - (4) G A Pの取り組み推進
4. 水田の有効活用に取り組めます。
 - (1) 大豆雑草多発田から飼料用米への転換し、C E施設の効率的利用に適合した品種構成の確立

目標作付面積(ha)	現 状	令和元年度	令和2年度	令和3年度
夢つくし	290	300	310	320
元気つくし	175	250	250	250
ヒノヒカリ	1,225	1,100	1,040	980
つやおとめ	95	100	100	100
ヒヨクモチ	95	100	100	100
実りつくし	15	50	100	150
米粉・飼料用米	140	150	150	150
合 計	2,035	2,050	2,050	2,050

【 麦 】



○現状・課題

担い手を支える重要な品目として生産振興を図っており、また、水田活用や経営所得安定対策においても、数量と品質に基づいた交付金により、農家経営の安定、食料自給率の向上を目的とした取り組みが本格化し課題となっています。

○将来の方向

望まれる麦づくりとして経営所得安定対策の対象となる担い手組織、個別担い手の経営安定を支援します。

○生産目標

	現 状	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
部会員数 (人)	655	655	655	655
はるしずく (ha)	899	905	900	900
シロガネコムギ (ha)	857	841	856	856
ミナミノカオリ (ha)	254	254	254	254
出 荷 量 (t)	6,942	7,000	7,230	7,430
収量 (kg/10 a)	340	350	360	370

【大 豆】



○現状・課題

県内有数の生産地であり、実需者・消費者からの期待も大きく、生産性向上・収益性向上に向けた産地強化が課題となっています。

○将来の方向

望まれる大豆づくりとして、経営所得安定対策の対象となる担い手組織、個別担い手の経営安定を支援し、品質及び収量の向上を目指します。

○生産目標

	現 状	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
部会員数 (人)	665	665	665	665
作付面積 (ha)	705	720	720	720
出 荷 量 (t)	1,223	1,290	1,360	1,440
収量 (kg/10 a)	173	180	190	200

○麦・大豆の具体的な取り組み方策

1. 麦部会、大豆部会の組織強化に取り組みます。
2. 土づくりの励行に取り組みます。
3. 適期播種の励行に取り組みます。
4. 排水対策の徹底に取り組みます。
5. 部分浅耕一工程播種による省力・低コスト栽培に取り組みます。
6. 新品種小麦（西海 201 号、中国 171 号）の試作に取り組みます。
7. 肥料農薬の予約注文による生産コスト低減に努めます。

【畜産】



○現状・課題

牛：飼料・素牛の高騰による生産コスト高、品質による販売金額の格差による経営の悪化により、牛経営安定対策(マルキン)及び配合基金システムが発動しています。

豚：県下平均より死亡率が低いため経営は安定していますが、施設の老朽化による設備投資が必要となっています。また、臭気問題は敷剤の改良を行っていますが、冬場についてはさらに改善が必要です。

○将来の方向

牛：飼料高騰や素牛高騰に負けない肥育技術の向上を図る為に、令和4年第12回全国和牛能力共進会への取り組みに参加します。また、飼料の検討をおこない、消費者が認める付加価値のある牛肉をつくり、所得向上を目指します。

豚：ジェイエイ北九州ファームの子豚農場の増設により、子豚頭数が増加する為に全農ふくれん等と協力し、新規農家を推進します。

○具体的な取り組み方策

牛：1. 博多和牛の安定生産に取り組みます。

- (1) 素牛選定及び肥育前期の粗飼料の多給による枝肉重量及び肉質の向上
- (2) 飼料の給仕方法の見直しや若手生産者の育成
- (3) 定期的な牛舎の見回りによる異変等の早期発見

肥育牛目標	現 状	令和元年度	令和2年度	令和3年度
肉質4等級以上(%)	78	80	85	85
枝肉重量(kg)	483	485	490	500
出荷頭数(頭)	127	120	90	80
事故頭数(頭)	4	0	0	0
生産者数(数)	3	3	3	2

豚：1. 安心・安全で環境問題に配慮した畜産物の生産に取り組みます。

- (1) 定期的な堆肥の切り返しを行い発酵の促進を図り、良質な豚ふん生産に取り組み、豚ふん在庫を解消
- (2) 定期的な豚舎の見回りによる異変等の早期発見
- (3) 地元産飼料用米を使用した米豚の生産

養豚目標	現 状	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事故率(%)	1.5	1.0	1.0	1.0
出荷頭数(頭)	14,000	14,000	14,000	14,000
生産者数(数)	2	2	2	2

【冬春なす】



○現状・課題

生産者、作付面積は徐々に減少しているが、新しい生産方法の取り組みや単為結果性品種の導入により生産量は維持されています。また、県内一の博多なす産地としてシーズンを通した契約取引を行なうなど有利販売に努めております。

現在、単為結果性品種「P C筑陽」の導入が全体 80%と進んでおり、栽培技術の見直しが急務な課題となっています。

新技術として、施設内環境測定機器を活用した施設環境内制御と炭酸ガス施用(光合成促進装置)による生産量の増大につながる確実な技術が課題となっています。

○将来の方向

「P C筑陽」の導入により管理作業時間が削減されることで、規模拡大が可能になるため、雇用型経営の育成に取り組みます。

また、市場との契約販売の強化を行い安定価格の維持に努めます。

○具体的な取り組み方策

1. 品質向上・生産量向上に取り組みます。

- (1) 「P C筑陽」の栽培技術の確立
- (2) 日中加温技術・炭酸ガス施用技術確立および普及推進
- (3) 雇用型経営に向けた、人材確保の検討
- (4) 新規栽培者への里親制度の導入

2. コスト低減に取り組みます。

- (1) 土壌分析値の活用による適正な施肥の実施
- (2) ハウス内環境測定装置を有効活用した収量向上
- (3) 天敵利用技術を活用した減農薬栽培

○生産目標

	現 状	令和元年度	令和2年度	令和3年度
部会員数（人）	202	197	193	190
作付面積（ha）	49	49	49	49
出荷量（t）	5,518	6,200	6,200	6,200
収量（t/10a）	11.2	12.6	12.6	12.6

【いちご】



○現状・課題

「あまおう」を部会全員で栽培を行っています。シーズンを通して安定出荷を図るため、株冷・夜冷・普通作型を組み合わせ、作型分散を図っています。また、各種研修会を開催し、栽培管理の適正化による反当り収量増加や品質向上を図っています。

消費者の食に対する安全・安心への関心が強く、残留農薬分析や市場研修を行い安全性のアピールと、ふるさと納税対応に取り組み消費拡大を図っています。

○将来の方向

若手生産者に向けた雇用型経営や生産面積拡大推進を図ります。また、労力軽減のためパッケージセンターの利用を推進し、産地の維持・拡大を目指します。

○具体的な取り組み方策

1. 生産面積の維持・拡大、省力化に取り組みます。
 - (1) パッケージセンターの拡充により、生産面積の拡大や高齢者の栽培延長
 - (2) 補助事業を活用し、規模拡大、高設栽培の導入
 - (3) 雇用型経営・規模拡大取組産地の調査・研究
2. 品質向上・生産量向上に取り組みます。
 - (1) 予冷施設を活用し、品質管理の徹底
 - (2) シーズンを通して、安定出荷ができる作型構成の確立
 - (3) 各種研修会の実施により、生産技術の向上
 - (4) ICT（情報通信技術）を駆使した環境制御等の利用による単収向上
3. 新規栽培者の確保に取り組みます。
 - (1) 新規栽培者、就農希望者の研修受入れ体制の整備
 - (2) 遊休施設の情報提供及び斡旋
 - (3) 就農相談会の開催
4. 安全性のアピールと消費拡大に取り組みます。
 - (1) OCR（ふくおか農産物安全安心システム）を活用し生産履歴の記帳徹底
 - (2) 定期的な残留農薬分析検査の実施による安全・安心のアピール
 - (3) ふるさと納税の対応による産地アピール・消費拡大
 - (4) 福岡県版GAP認証取得に向けた研修会の開催

○生産目標

	現 状	令和元年度	令和2年度	令和3年度
部会員数（人）	75	72	72	72
作付面積（ha）	12.8	13.0	13.3	13.3
出 荷 量（t）	543	559	598	598
収量（t/10a）	4.2	4.3	4.4	4.4

【セロリ】



○現状・課題

西日本最大のセロリ産地であるが、家族経営がメインであり家族の高齢化等による生産能力の低下により作付面積が減少しています。また、度重なる豪雨や夏場の高温等の異常気象により従来通りの栽培方法では生産量の確保が難しくなってきています。

栽培面積拡大を図るためには、新規栽培者や雇用の確保及び気象に対応した栽培技術の見直しが必要です。

○将来の方向

異常気象に対応した栽培技術の確立と増収・省力化技術の普及推進により、産地維持と新規栽培者の加入促進を図ります。また、市場との契約販売の占有率を高め安定価格維持に努めます。

○具体的な取り組み方策

1. 品質・生産量向上に努めます。
 - (1) 三期作の取り組みによる生産数量の増大
 - (2) 新品種「東山16号」作付けによる単収増大
 - (3) 太陽熱消毒の励行による、土壌病害の被害の軽減
 - (4) 異常気象に対応した栽培技術の検討
 - (5) 環境制御装置と循環扇の活用による品質及び収量の向上
2. コスト低減対策に取り組めます。
 - (1) 土壌分析研修会開催による適正施肥の実施
 - (2) 定植機を利用した作業労力の軽減
 - (3) 保温資材導入による重油使用量の削減
3. 新規栽培者の確保に取り組めます。
 - (1) 新規栽培希望者の研修受入体制の確立

○生産目標

	現 状	令和元年度	令和2年度	令和3年度
部会員数（人）	27	26	27	28
作付面積（ha）	42.2	41.8	42.2	42.6
出荷量（t）	2,772	2,950	3,050	3,150
収量（t/10a）	6.5	7.0	7.2	7.3

【とまと】



○現状・課題

耐病性品種の導入により、黄化葉巻病の発生は少なく病虫害防除の軽減により、安全・安心なトマト栽培を行っています。また、販売面では、消費者ニーズに合った荷姿で単価の底上げを図っています。部会員の高齢化や、生産資材の高騰、販売単価の低迷により、収益性が悪化し、生産面積が縮小しています。

収益性確保のため、品質および収量の向上や生産・出荷コストの低減、販売単価の向上が課題となっています。

○将来の方向

販売単価の向上を図るため、消費者ニーズに合った規格の検討・導入を進めます。また、コスト低減のため出荷資材の見直しを行い、生産者所得の増加を図ります。

○具体的な取り組み方策

1. 品質向上・生産量向上に取り組みます。
 - (1) 高品質かつ病害抵抗性の有望品種の導入
 - (2) 循環扇導入の推進を図り、施設内環境改善による病気抑制と品質向上
 - (3) 定期的な栽培研修会による栽培技術向上
2. コスト低減対策に取り組みます。
 - (1) 天敵利用技術による農薬散布削減
 - (2) 出荷資材検討・輸送試験の実施
 - (3) 土壌分析による適正施肥
3. 安全性のアピールに取り組めます。
 - (1) OCR（ふくおか農産物安全安心システム）を活用し生産履歴の記帳徹底
 - (2) 定期的な残留農薬分析検査の実施による安全・安心のアピール
 - (3) 福岡県版GAP認証取得に向けた研修会の開催

○生産目標

	現 状	令和元年度	令和2年度	令和3年度
部会員数（人）	10	6	6	6
作付面積（ha）	1.9	1.5	1.5	1.5
出 荷 量（t）	215	157	180	202
収量（t/10a）	11.3	10.4	12.0	13.4

【アスパラガス】



○現状・課題

博多アスパラガスは園芸振興作物として、新規就農者や他品目との複合経営、定年帰農者中心に推進を図り、新規栽培者の増加や既存者の面積拡大により栽培面積は年々増加しています。自動根切選別機、自動計量結束機を活用し、品質向上と労働力削減を図り、安定出荷と有利販売に努めています。

病害虫の多発や台風襲来、夏場の異常高温による生育異常茎の増加、さらに、15年を超えた多年生株の割合が全体の約3割以上となり、反当たりの出荷量が減少しています。そのため、夏場の高温抑制対策や栽培の維持に必須とされる補植技術の確立が大きな課題となっています。

○将来の方向

新規栽培者の確保や既存栽培者の面積拡大を図ります。また、適期作業の徹底と高温抑制対策により秀品率向上および補植技術の確立により出荷量の増加を図ります。

○具体的な取り組み方策

1. 品質向上・生産量向上に取り組みます。
 - (1) 栽培管理の適期作業の励行、各種研修会を実施
 - (2) 夏場の高温抑制対策としての資材の検討及び導入
 - (3) 妻換気等による換気の徹底
 - (4) 補植技術の確立による多年生株の収量維持
2. コスト低減対策に取り組みます。
 - (1) 交信攪乱剤の導入による薬剤散布の労力軽減
 - (2) 歩行式及び自走式防除機導入推進による散布労力の軽減
 - (3) 土壌分析による適正施肥の実施
3. 新規栽培者・定年帰農者の確保に取り組みます。
 - (1) TACと連携した、定期的な就農・新規者相談会の実施
 - (2) 遊休施設の提供および斡旋

○生産目標

	現 状	令和元年度	令和2年度	令和3年度
部会員数（人）	50	51	51	52
作付面積（ha）	9.0	9.2	9.3	9.5
出 荷 量（t）	153	184	195	209
収量（t/10a）	1.7	2.0	2.0	2.2

【きゅうり】



○現状・課題

高齢化等により栽培面積は減少しています。また、天候不順等により従来通りの栽培方法では生産量の確保が難しくなっています。

そのため、栽培面積増加を図るには、新規栽培者の確保と天候に対応した栽培技術の見直しが必要です。

○将来の方向

異常気象に対応した栽培技術や対策の確立に取り組みます。また、部会員や生産面積の減少が著しいため、炭酸ガス発生装置や天敵資材等の先進技術の導入や天候に応じた栽培技術の確立により、単収の増加や省力化を図り一戸あたりの規模拡大や新規栽培者の確保に取り組みます。

○具体的な取り組み方策

1. 品質・生産量向上に取り組みます。
 - (1) 定期的な研修会の実施による栽培技術の向上
 - (2) 目合わせ会の実施による品質の向上
 - (3) 炭酸ガス発生装置の導入や環境制御装置の導入による生産量の増収
 - (4) 異常気象に対応した栽培技術の検討
2. コスト低減対策に取り組みます。
 - (1) 天敵資材導入による農薬散布回数の削減
 - (2) 土壌分析を基にした適正施肥の実施
 - (3) 保温資材導入による重油使用量の削減
3. 新規栽培者の確保に取り組みます。
 - (1) T A C と連携し新規者・部会未加入者への加入推進
 - (2) 広報誌等を活用した加入推進

○生産目標

	現 状	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
部会員数（人）	8	8	9	10
作付面積（ha）	1.2	1.1	1.3	1.4
出 荷 量（t）	196	168	206	224
収量（t/10a）	16.3	15.2	15.8	16.0

【トウモロコシ】



○現状・課題

高齢化による部会員の減少はあるが、新規栽培者の加入は多く栽培面積および出荷量は増加しています。ふるさと小包便による直売がメインでの販売となっており、出荷量を増加させるためにも更なる品質向上や、生産面積の拡大が求められています。

○将来の方向

ハウスアーチ省力資材の導入や保温資材等の普及推進を図り、作業労力の軽減や発芽率の向上を図る事で作付面積の拡大につなげ、また、既存の栽培技術の検討や新技術の導入を行う事で反収の増加を図り、新規栽培者の確保に取り組みます。

○具体的な取り組み方策

1. 品質・生産量向上に努めます。
 - (1) 定期的な研修会の実施による栽培技術・品質意識の向上
 - (2) 目合わせ会の実施による品質の統一
 - (3) 優良品種・肥料の試験を行い、反収の増加
 - (4) 作型の分散を行い、安定出荷の実施
2. コスト対策に取り組みます。
 - (1) 土壌分析を基にした適正施肥の実施
 - (2) ハウスアーチ省力資材の普及推進を行ない、作業労力の軽減
 - (3) 保温資材導入による発芽率の向上
3. 新規栽培者の確保に取り組みます。
 - (1) 広報誌等を利用し、新規者・部会未加入者への加入推進の実施

○生産目標

	現 状	令和元年度	令和2年度	令和3年度
部会員数（人）	27	28	29	30
作付面積（ha）	2.9	3.0	3.1	3.2
出 荷 量（t）	27	28	29	30
収量（t/10a）	0.9	0.9	0.9	0.9

【たけのこ】



○現状・課題

気象の影響による生産量の変動が激しいことや高齢化により生産者、管理竹林面積は減少しています。しかし、比較的管理作業は容易で初期投資も少ないため、新規に取り組みやすくなっています。また、年内より出荷される「早掘りたけのこ」産地として全国的にも注目を集めています。

高齢化により掘取作業が困難な生産者が多く放棄竹林が課題となっています。

○将来の方向

掘り取り作業が困難になる生産者が多くなっているため、定年帰農者の取り組み作物としての振興を図りつつ、労力軽減の為3月までの掘り取りを行う竹林管理を目指します。

○具体的な取り組み方策

1. 品質・生産量の向上に取り組みます。
 - (1) ワイヤーマッシュ・電気放柵により獣害被害の防止
 - (2) 肥培管理徹底により発生量の安定化
 - (3) 丁寧な根切り及び根汚れ防止による品質向上
 - (4) 選果場間の品質格差是正
2. 管理作業の労力軽減に取り組みます。
 - (1) 筍の最盛期前に中小径の親竹を仕立て、掘り取り作業の労力軽減
 - (2) 筍の中小経化の栽培による発生時期の早期化
 - (3) 裏止め実施による伐竹作業の軽減

○生産目標

	現 状	令和元年度	令和2年度	令和3年度
部会員数（人）	406	406	400	400
作付面積（ha）	95	95	95	95
出 荷 量（t）	422	370	400	350

【高 菜】



○現状・課題

生産者の高齢化や収穫時期の労働力確保が困難になっており、収穫時期が4月に集中するため、他品目との両立が難しく、規模拡大も難しい状況となっており、部会の栽培面積は年々減少しています。

販売面では、コンビニおにぎり等の使用により、高菜漬けの需要が益々高まっており、需要と供給のバランスが崩れてきています。

○将来の方向

生産者の高年齢化により栽培面積の維持・拡大が難しくなっているため、今後は新規栽培者及び営農法人等へ栽培推進し生産量の拡大を図ります。

生産資材の高騰及び労働力確保の問題が生じているため、漬物会社と協議を行い高菜原料価格向上に取り組めます。

○具体的な取り組み方策

1. 収量・品質向上に取り組めます。
 - (1) 栽培試験の実施による栽培技術の確立
 - (2) 土壌診断に基づく適切な施肥設計
 - (3) 病害虫の適期防除による品質向上
 - (4) 堆肥の利用による地力の向上
2. 栽培面積の維持・拡大に取り組めます。
 - (1) 集落営農法人へ新規作物として高菜の推進
 - (2) 新規栽培者へのフォローの充実
 - (3) 集落営農法人と連携し、収穫時期の労働力斡旋
 - (4) 作業の機械化による省力化の検討

○生産目標

	現 状	令和元年度	令和2年度	令和3年度
部会員数（人）	12	14	16	20
作付面積（ha）	2.4	3.2	3.8	5.0
出荷量（t）	62	144	171	225
収量（t/10a）	2.5	4.5	4.5	4.5

【その他野菜類】



○現状・課題

施設・露地野菜は、高齢化により栽培者数、栽培面積が減少しています。露地野菜については価格変動が大きく所得の不安定が課題となっています。

○将来の方向

農事組合法人、担い手等へ補完作物として推進を図り、品目の組み合わせによる所得の向上を目指します。また、新たな取扱い品目を増やし、生産者より JA を有効利用してもらう。

○具体的な取り組み方策

1. 生産量の向上に取り組めます。
 - (1) 夏秋作型の P C 筑陽栽培技術の確立
 - (2) 基本管理技術の励行による品質および収量向上
 - (3) 広報誌掲載や栽培説明会開催による新規栽培者の推進
2. コスト対策に取り組めます。
 - (1) 天敵を利用した農薬コストの削減
 - (2) 適期防除による病虫害の発生防止
 - (3) ニンニク機械（定植機、畝たてマルチ等）レンタルによるコスト削減

○作付目標

(作付面積：ha)

	現 状	令和元年度	令和2年度	令和3年度
夏秋なす	2.3	2.3	2.4	2.4
ブロッコリー	2.3	2.4	2.4	2.4
オクラ	0.7	0.8	0.9	1.0
ニンニク	0.7	1.2	2.0	3.0
スナップエンドウ	0.2	0.5	0.5	0.5

【花 き】



○現状・課題

部会員 15 名で生産を行なっています。気象条件による管理の変化、連作障害の発生など栽培環境は厳しくなっているが、土壌分析や栽培試験の結果を基に対策を実施しています。

販売および経営面では、春期～夏期の単価低迷と、資材費、燃料費、運賃などの経費増加が課題となっています。

○将来の方向

若手生産者を中心に雇用型経営へのシフトを目指し一戸あたりの売上げを向上させることで部会全体の販売額維持を図ります。さらに、生産技術の改善および販売強化を行ない出荷量と単価の向上を図ります。

○具体的な取り組み方策

1. 品質向上・生産量向上に取り組めます。
 - (1) 土壌分析を実施し各圃場に適した施肥管理
 - (2) 生産量増加の為の品種選定
 - (3) 天候状況に合わせた温度管理
 - (4) 連作障害回避の為の薬剤を使用した土壌消毒
 - (5) 雇用型経営の取り組み支援
2. コスト対策に取り組めます。
 - (1) 生産対策を基にした経営体質の強化
 - (2) 自家育苗技術向上による育苗費軽減
 - (3) 天敵導入によるコスト低減

○生産目標

	現 状	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
部会員数 (人)	15	15	15	15
作付面積 (ha)	3.8	4.0	4.0	4.0
出 荷 量 (千本)	2,370	2,500	2,500	2,500
収量 (千本/10 a)	62.3	62.5	62.5	62.5

【柑 橘】



○現状・課題

みやま市・大牟田市の中山間地域で生産しており特に品質においては全国でも有数の産地です。

高品質な果実を生産する為、シートマルチ被覆栽培を推進しブランド率向上に努めており、市場より高い評価を得ています。しかし、生産者の高齢化・後継者不足により生産量と栽培面積は減少を続けており、大きな課題となっています。

○将来の方向

基盤整備を実施し、労力の軽減を図るとともに、生産性が高く高品質な優良品種の導入を図り、高品質果実の安定生産・販売金額の増加に取り組みます。また、雇用や新規就農者の確保と育成に努め、産地の発展につなげます。

○具体的な取り組み方策

1. 産地全体の生産量維持に努めます。
 - (1) 小規模基盤整備事業による園内道舗装、かん水施設の導入、排水路の整備
 - (2) 改植事業による園地の若年化、優良品種への更新
 - (3) ICTの活用による、作業の効率化
 - (4) 一戸あたりの栽培面積を拡大
 - (5) 雇用労力の確保及び新規就農者の確保と育成
 - (6) 園地流動化による優良園地の確実な継承
2. 優良系統品種の高品質生産に向けた取り組み及び探索・導入を図ります。
 - (1) 早味かんや北原早生等の優良品種に特化した高品質生産に向けた研修会の開催
 - (2) 12月出荷で連年結果性の有る新品種の探索と導入
3. 基本的な栽培管理とブランド率向上に取り組みます。
 - (1) シートマルチ栽培による品質の向上、ブランド品の生産量の増加
 - (2) 土壌改良剤、堆肥の施用による土作りを徹底し、樹勢維持・収量の増加

○生産目標

	現 状	令和元年度	令和2年度	令和3年度
部会員数（人）	342	315	310	300
作付面積（ha）	325	325	325	325
出 荷 量（t）	7,230	7,900	7,900	7,900
収量（t/10a）	2.2	2.4	2.4	2.4

※出荷数量は加工原料も含む。

【ぶどう】



○現状・課題

現状、デラウェア・巨峰を中心に黄緑系ハニービーナス・シャインマスカットを主力品種として生産販売を行っていますが、高齢化による生産面積の減少により生産量の維持が厳しくなっています。

近年は生産量が天候に左右されているため、天候に左右されにくく安定生産ができる種なし栽培の推進を行っています。

○将来の方向

今後は、ベリーA について 2.4ha 作付けされていますが、収益性の高いシャインマスカット等への改植推進を図り所得増大を目指します。

○具体的な取り組み方策

1. 品質向上・生産量向上に取り組めます。
 - (1) シャインマスカット栽培技術の確立
 - (2) 栽培技術確立による安定生産
 - (3) 環状剥被による着色不良対策
 - (4) 収益性の高い品種への更新
2. コスト低減対策に取り組めます。
 - (1) 被覆時期又は多重被覆栽培による省エネ対策
 - (2) 長梢平行整枝、短梢せん定導入によるせん定作業の労力軽減
 - (3) 省力品種「BK シードレス」の推進
3. 労力軽減対策に取り組めます。
 - (1) パッケージセンター利用による労力軽減

○生産目標（山川・大牟田）

	現 状	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
部会員数（人）	76	74	72	71
作付面積（ha）	27.2	27.2	27	27
出荷量（t）	266	257	267	267
収量（t/10a）	0.9	0.9	0.9	0.9

【すもも】



○現状・課題

栽培面積は、加温 1.1ha、雨よけ 8ha、露地 11.5ha と施設栽培が多い産地となっています。主要産地の他県と比較して温暖な気候と施設栽培を利用した早期出荷での有利販売を行っています。現在「大石早生」を中心として「ソルダム」、「サンタローザ」、「貴陽」、「太陽」等の品種を栽培していますが、「ソルダム」においては収穫適期の判断が困難なため未熟果、過熟果の発生が増えています。

○将来の方向

施肥や側枝の更新による樹勢維持や、生産力が落ちた老木の改植を推進し、生産量の維持を計ります。また、有望な新品種の導入に努めます。

パック詰めにかかる労力を削減するためパッケージセンターの利用を推進し、生産量の維持を図ります。

販売については、品種や作型毎のリレーによる有利販売を目指します。

○具体的な取り組み方策

1. 品質向上・生産量向上に取り組みます。
 - (1) ウイロイド感染拡大予防のため、ハサミ・ノコの消毒徹底
 - (2) パッケージセンター利用による栽培継続及び収穫量増加
 - (3) 堆肥・土壌改良材投入による樹勢の強化
 - (4) 「ソルダム」から豊産性品種「サマーエンジェル」、「サマービュート」と受粉樹「ハリウッド」への改植
 - (5) 土壌分析実施による適正な施肥管理
 - (6) 目合せ会開催による適熟出荷の徹底
2. 労力軽減に取り組みます。
 - (1) ブローア利用による受粉労力の軽減
 - (2) パッケージセンター利用による労力軽減
 - (3) 樹形改造による剪定労力軽減

○生産目標

	現 状	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
部会員数 (人)	85	83	82	80
作付面積 (ha)	20	20	20	19
出 荷 量 (t)	189	280	280	280
収量 (t/10a)	0.9	1.4	1.4	1.4

【キウイフルーツ】



○現状・課題

現在、「ヘイワード」・「甘うい」を栽培していますが、ヘイワードの老木化による樹勢低下により、収量が低下しているのが課題となっています。

○将来の方向

樹勢強化対策及び、若木への改植の推進を図るため、高温・乾燥に強いシマサルナシ台木の導入による改植推進を推進します。

販売面では、キウイフルーツの健康機能性が高く、安定した単価が見込まれることから、天候に左右しにくい栽培体系を目指します。

○具体的な取り組み方策

1. 生産量向上に取り組めます。
 - (1) 土壌分析による適正な土壌改良剤投入
 - (2) 結実対策の徹底
 - (3) 樹体改良による剪定の確立
 - (4) 自家花粉採取による安定生産
 - (5) 液体受粉、機械受粉による効率化
 - (6) 新規者及び面積拡大生産者へ「活力ある高収益園芸産地育成事業」の推進
2. キウイのメリット生かした栽培体系を構築します。
 - (1) 複合栽培での新規栽培者の推進
3. ブランド品種「甘うい」栽培技術の確立を図ります。
 - (1) 苗木育成管理による早期収穫(一文字整枝)
 - (2) 結実3年目、単収2t目標

○生産目標

	現 状	令和元年度	令和2年度	令和3年度
部会員数 (人)	61	62	64	65
作付面積 (ha)	11.2	12.2	12.4	12.5
出荷量 (t)	207	220	230	250
収量 (t/10a)	1.8	1.8	1.8	2.0

【いちじく】



○現状・課題

市場評価の高い優良品種「とよみつひめ」の導入を推進しています。

露地栽培は病害の発生が多く品質低下につながっており、品質の安定化が必要です。生産者の高齢化・後継者不足により生産量と栽培面積は減少を続けており、大きな課題となっています。

○将来の方向

いちじくは、栽培が比較的容易であることから、新規生産者の推進を図り、生産量の確保に取り組めます。

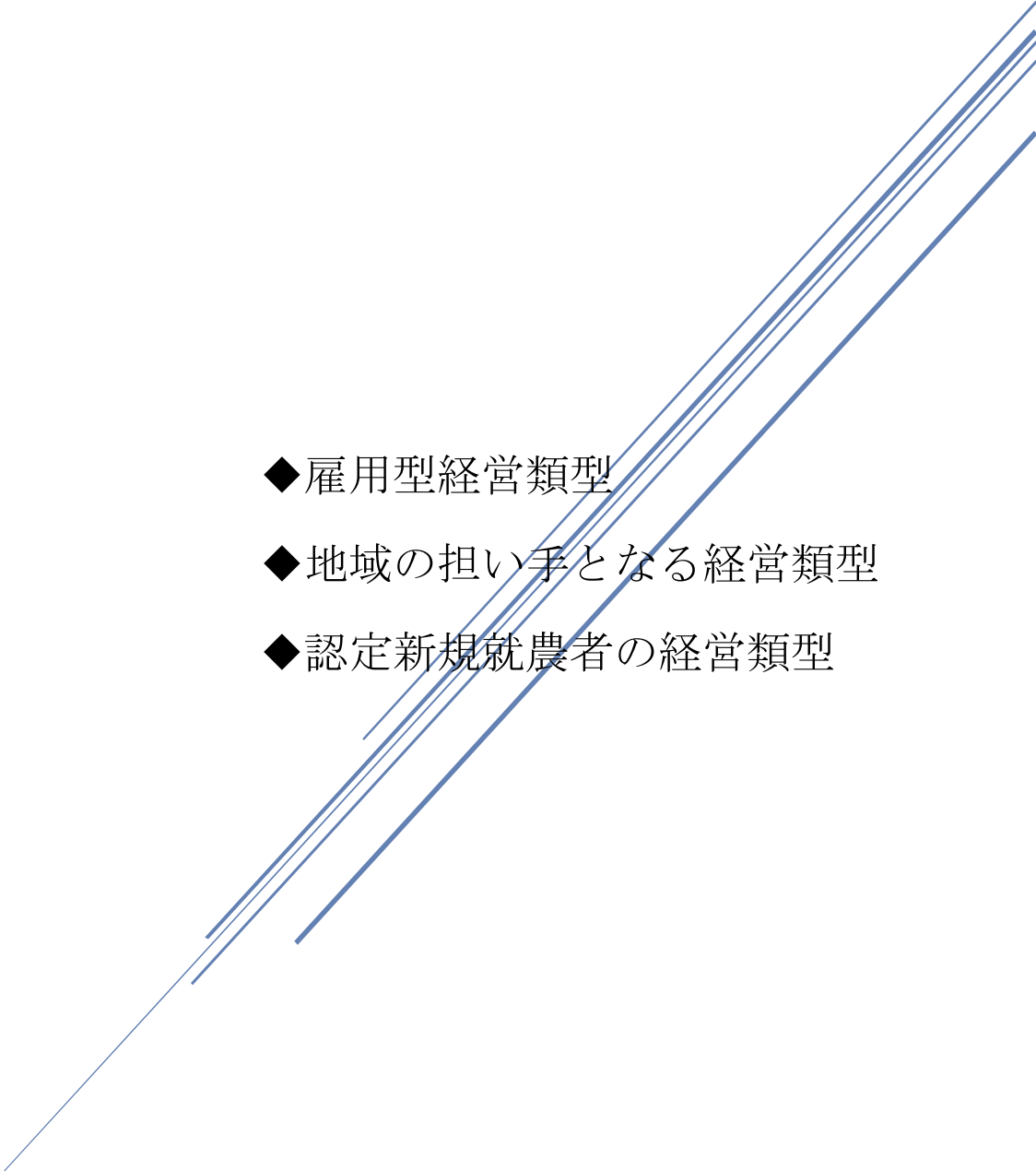
○具体的な取り組み方策

1. 品質向上・生産量向上に取り組めます。
 - (1) 雨よけ栽培の推進
 - (2) 土作り、施肥管理、かん水実施による「とよみつひめ」の樹勢維持
 - (3) 適期収穫、適期防除による収量向上
2. 新規栽培者の確保に取り組めます。
 - (1) 広報誌等による栽培者の募集
3. 労力軽減対策に取り組めます。
 - (1) パッケージセンター利用による生産性の向上、パック詰め労力の軽減

○生産目標

	現 状	令和元年度	令和2年度	令和3年度
部会員数（人）	16	15	15	14
作付面積（ha）	1.4	1.4	1.5	1.5
出荷量（t）	19	18	20	20
収量（t/10a）	1.3	1.3	1.3	1.3

■経営モデル

- 
- ◆雇用型経営類型
 - ◆地域の担い手となる経営類型
 - ◆認定新規就農者の経営類型

経営モデル

雇用型経営類型

(1-1) 園芸を取り入れた大規模土地利用型 農業経営

○経営の概要

認定農業者である水稲、麦、大豆の個別大規模経営。大豆収穫作業は地域の生産組織に委託する。家族労働力は3人で、常時雇用1人、労力が不足する時期は臨時雇用で補う。

○経営規模

水稲	7 h a
麦	11 h a
大豆	7 h a
ブロッコリー	2.5 h a

○経営利益

粗収入	36,130千円
農業所得	14,135千円

○主な資本装備

トラクタ	1台
田植機	1台
コンバイン（4条刈）	1台
水田管理用ビークル	1台
育苗ハウス	一式
半自動移植機	1台

(1-2) 園芸を取り入れた大規模土地利用型 農業経営

○経営の概要

認定農業者である水稲、麦、大豆の個別大規模経営。大豆収穫作業は地域の生産組織に委託する。家族労働力は3人で、常時雇用1人、労力が不足する時期は臨時雇用で補う。

○経営規模

水稲	7 h a
麦	11 h a
大豆	7 h a
トウモロコシ	2.5 h a

○経営利益

粗収入	34,280千円
農業所得	13,535千円

○主な資本装備

トラクタ	1台
田植機	1台
コンバイン（4条刈）	1台
水田管理用ビークル	1台
育苗ハウス	一式
半自動移植機	1台
トンネル資材	一式

(2) ナス専作大規模経営

○経営の概要

鉄骨補強型パイプハウスを導入し、早植え、長期出荷を実現。家族労働力は3人、常時雇用3人（10～6月）、労力が不足する時期は臨時雇用で補う。

○経営規模

ナス（促成）	60 a
--------	------

○経営利益

粗収入	38,340千円
農業所得	11,364千円

○主な資本装備

パイプハウス（鉄骨補強型）	60 a
自動防除機	1台
自動換気装置	一式
暖房機	3台
トラクタ	1台
動噴	1台
管理機	1台
光合成促進装置	3台

(3) アスパラガス専作大規模経営

○経営の概要

アスパラガス専作大規模経営。家族労働力は3人で、常時雇用1人（2～9月）、労力が不足する時期は臨時雇用で補う。

○経営規模

アスパラガス	80 a
--------	------

○経営利益

粗収入	24,720千円
農業所得	9,080千円

○主な資本装備

パイプハウス	80 a
黄色蛍光灯	一式
二重カーテン	一式
灌水施設	一式
ミニ耕運機	1台
管理機	1台
自動防除機	1台

※トラクタは定植時のみ使用のため、リース対応とする。

(4) イチゴ専作大規模経営

○経営の概要

施設イチゴ50aのイチゴ専作大規模経営。家族労働力3人で、常時雇用1人(10～6月)、労力が不足する時期は臨時雇用で補う。

○経営規模

イチゴ(促成) 50a

○経営利益

粗収入 27,300千円
農業所得 9,440千円

○主な資本装備

パイプハウス 50a
棚式育苗施設 一式
灌水施設 一式
電照施設 一式
自動換気装置 一式
暖房機(500型) 3台
予冷库 1台
トラクタ 1台
動力噴霧器 1台
管理機 1台

(5) 園地登録制によりオリジナル商品生産に取り組む大規模柑橘経営

○経営の概要

J A部会独自の園地登録制に取り組む柑橘専作経営。シートマルチ栽培によりブランド商品生産に取り組む。家族労働力は3人、常時雇用1人(6～1月)、労力が不足する時期は臨時雇用で補う。

○経営規模

早味かんマルチ 50a
北原早生マルチ 50a
早生マルチ 170a
石地 30a
普通ミカンマルチ 50a

○経営利益

粗収入 26,925千円
農業所得 9,423千円

○主な資本装備

スピードスプレヤー 1台
運搬車 1台
ローラー式選果機 1台

地域の担い手となる経営類型

(1) 水稻、麦、大豆の個別大規模経営

○経営の概要

認定農業者である水稻、麦、大豆の個別大規模経営。大豆収穫作業は地域の生産組織に委託する。

○経営規模

水稻 9ha
麦 15ha
大豆 6ha

○経営利益

粗収入 27,602千円
農業所得 7,501千円

○主な資本装備

トラクタ 1台
田植機 1台
コンバイン(4条刈) 1台
水田管理用ビークル 1台

(2) 家族労働力中心のナス経営

○経営の概要

鉄骨補強型パイプハウスを導入し、早植え、長期出荷を実現。家族労働力を中心に不足時は臨時雇用で補う。

○経営規模

ナス(促成) 30a

○経営利益

粗収入 19,170千円
農業所得 5,682千円

○主な資本装備

パイプハウス(鉄骨補強型) 30a
自動防除機 1台
自動換気装置 一式
暖房機 2台
トラクタ 1台
動噴 1台
管理機 1台
光合成促進装置 1台

(3) 家族労働力中心のイチゴ経営

○経営の概要

施設イチゴ30aの安定したイチゴ経営。家族労働力3人で一部の管理作業を臨時雇用にする。

○経営規模

イチゴ（促成） 30a

○経営利益

粗収入 16,380千円
農業所得 5,664千円

○主な資本装備

パイプハウス 30a
棚式育苗施設 8a
灌水施設 一式
電照施設 一式
自動換気装置 一式
暖房機（500型） 2台
予冷库 1台
トラクタ 1台
動力噴霧器 1台
管理機 1台

(4) 家族労働力中心のセロリ経営

○経営の概要

作型を二回転させる安定したセロリ経営。
家族労働力は2人で繁忙期や労働力不足時には臨時雇用や常時雇用を導入する。

○経営規模

セロリ 65a（2回転）

○経営利益

粗収入 21,970千円
農業所得 6,591千円

○主な資本装備

パイプハウス 65a
暖房機 5台
自動換気装置 5式
半自動移植機 1台
トラクタ 1台
育苗設備 7a

(5) 家族労働力中心のアスパラガス経営

○経営の概要

アスパラガス専作大規模経営。家族労働力は2人で、常時雇用1人（2～9月）、労力が不足する時期は臨時雇用で補う。

○経営規模

アスパラガス 50a

○経営利益

粗収入 15,450千円
農業所得 5,675千円

○主な資本装備

パイプハウス 50a
黄色蛍光灯 一式
二重カーテン 一式
灌水施設 一式
管理機 1台
自動防除機 1台

※トラクタは定植時のみ使用のため、リース対応とする。

(6) 園地登録制によりオリジナル商品生産に取り組む柑橘経営

○経営の概要

J A 部会独自の園地登録制に取り組む柑橘専作経営。シートマルチ栽培によりブランド商品生産に取り組む。

○経営規模

早味かんマルチ 50a
北原早生マルチ 50a
早生マルチ 100a
普通マルチ 30a

○経営利益

粗収入 17,825千円
農業所得 5,841千円

○主な資本装備

スピードスプレヤー 3戸共同
運搬車 1台
選果機 1台
ローラー式選果機 1台

認定新規就農者の経営類型

(1) イチゴ専作経営

○経営の概要

施設イチゴ20aの安定したイチゴ経営。家族労働力2人で、一部の管理作業を臨時雇用に任せる。

○経営規模

イチゴ（促成） 20a

○経営利益

粗収入 10,920千円

農業所得 3,776千円

○主な資本装備

パイプハウス	20a
棚式育苗施設	5a
灌水施設	一式
電照施設	一式
自動換気装置	一式
暖房機（600型）	1台
予冷库	1台
トラクタ	1台
動力噴霧器	1台
管理機	1台

(2) 家族労働力中心のナス経営

○経営の概要

鉄骨補強型パイプハウスを導入し、早植え、長期出荷を実現。家族労働力（2名）を中心に不足時は臨時雇いで補う。

○経営規模

ナス（促成） 20a

○経営利益

粗収入 12,780千円

農業所得 3,788千円

○主な資本装備

パイプハウス（鉄骨補強型）	20a
自動防除機	1台
自動換気装置	一式
暖房機	1台
トラクタ	1台
動噴	1台
管理機	1台
光合成促進装置	1台

(3) アスパラガス専作経営

○経営の概要

アスパラガス専作経営。家族労働力は2人で、一部の管理作業を臨時雇用に任せる。

○経営規模

アスパラガス 30a

○経営利益

粗収入 9,270千円

農業所得 3,405千円

○主な資本装備

パイプハウス	30a
黄色蛍光	一式
灌水施設	一式
管理機	1台
自動防除機	1台

※トラクタは定植前のみの使用であるため、リース対応とする。

(4) 園地登録制によりオリジナル商品生産に取り組む柑橘経営

○経営の概要

J A部会独自の園地登録制に取り組む柑橘専作経営。シートマルチ栽培によりブランド商品生産に取り組む。

○経営規模

早味かんマルチ 20a

北原早生マルチ 30a

早生マルチ 100a

○経営利益

粗収入 9,870千円

農業所得 2,961千円

○主な資本装備

スピードスプレーヤー	3戸共同
運搬車	1台
選果機	1台
動噴	1台

作目別経営指標

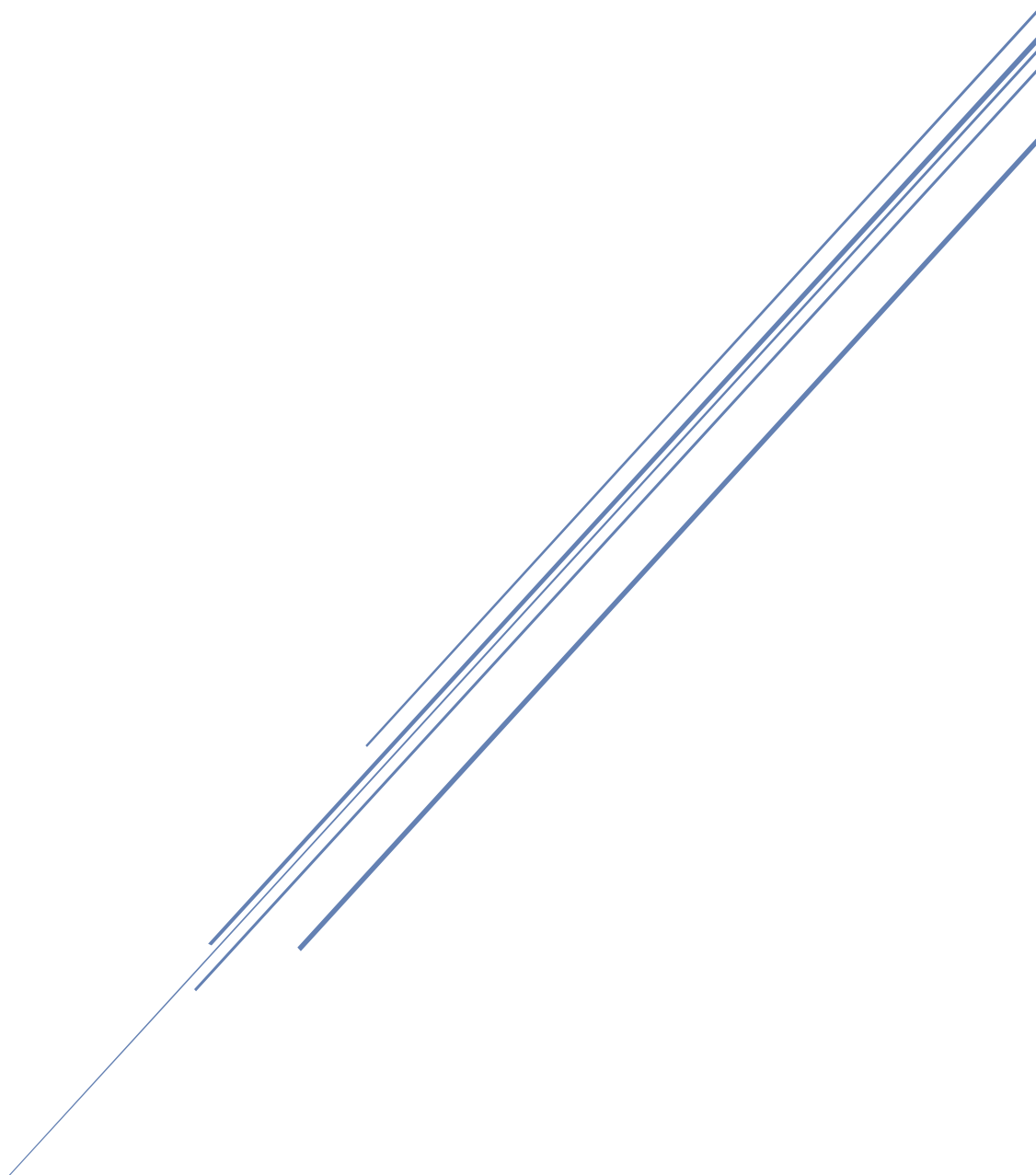
単位：10 a 当たり

作目名	栽培様式等	品種等	収量 (kg・本)	単価 (円)	粗収入 (千円)	経営費 (千円)	所得 (千円)	所得率 (%)	労働時間 (h)
水稻	慣行		500	226	113	73	40	35	10
麦	慣行		400	230	92	60	32	35	8
大豆	慣行		250	500	125	68	57	46	5
ナス	冬春（施設）		18,000	355	6,390	4,496	1,894	30	1,575
イチゴ	半促成	あまおう	4,200	1,300	5,460	3,572	1,888	35	1,824
セロリ	二期作		13,000	260	3,380	2,366	1,014	30	658
トマト	冬春（施設）	大玉	19,200	347	6,662	5,028	1,634	25	1,292
アスパラガス	雨除栽培	ウエルカム	3,000	1,030	3,090	1,954	1,135	37	1,180
キュウリ	冬春（施設）		18,000	300	5,400	4,104	1,296	24	1,910
トウモロコシ	露地（トンネル栽培）		1,500	200	300	171	129	43	210
ブロッコリー	露地		1,100	340	374	221	153	41	104
オクラ	露地	ブルースカイ	2,000	590	1,180	613	567	48	1,090
ニンニク	露地	嘉定種	800	600	480	225	255	53	409
エメラルド	周年（施設）		33,500	60	2,010	1,500	510	25	935
トルコギキョウ	秋出し		21,000	160	3,360	2,400	960	29	700
トルコギキョウ	春出し		21,000	150	3,150	2,600	550	17	760
ダリア	施設栽培		39,000	135	5,265	3,800	1,465	28	1,100
早味かん	露地	早味かん	2,000	380	760	499	260	34	145
早生ミカン	露地	北原	2,500	330	825	551	273	33	152
早生ミカン	露地		2,500	300	750	540	209	28	152
普通ミカン	露地		2,500	320	800	437	362	45	205
デラウェア	加温	デラウェア	1,600	1,429	2,286	1,305	980	43	270
デラウェア	トンネル	デラウェア	1,300	895	1,163	769	394	34	240
ブドウ		シャインマスカット	1,600	1,000	1,600	789	810	51	280
ブドウ		種無巨峰	1,420	900	1,280	790	490	38	300
スモモ	雨除栽培		2,000	760	1,520	850	670	44	400
キウイ	露地	ヘイワード	2,300	400	920	439	481	52	236
キウイ	露地	甘うい	2,800	500	1,400	702	698	50	236
イチジク	露地	ドーフィン	2,000	491	982	642	339	35	550
イチジク	トンネル	とよみつひめ	2,000	744	1,488	875	612	41	550

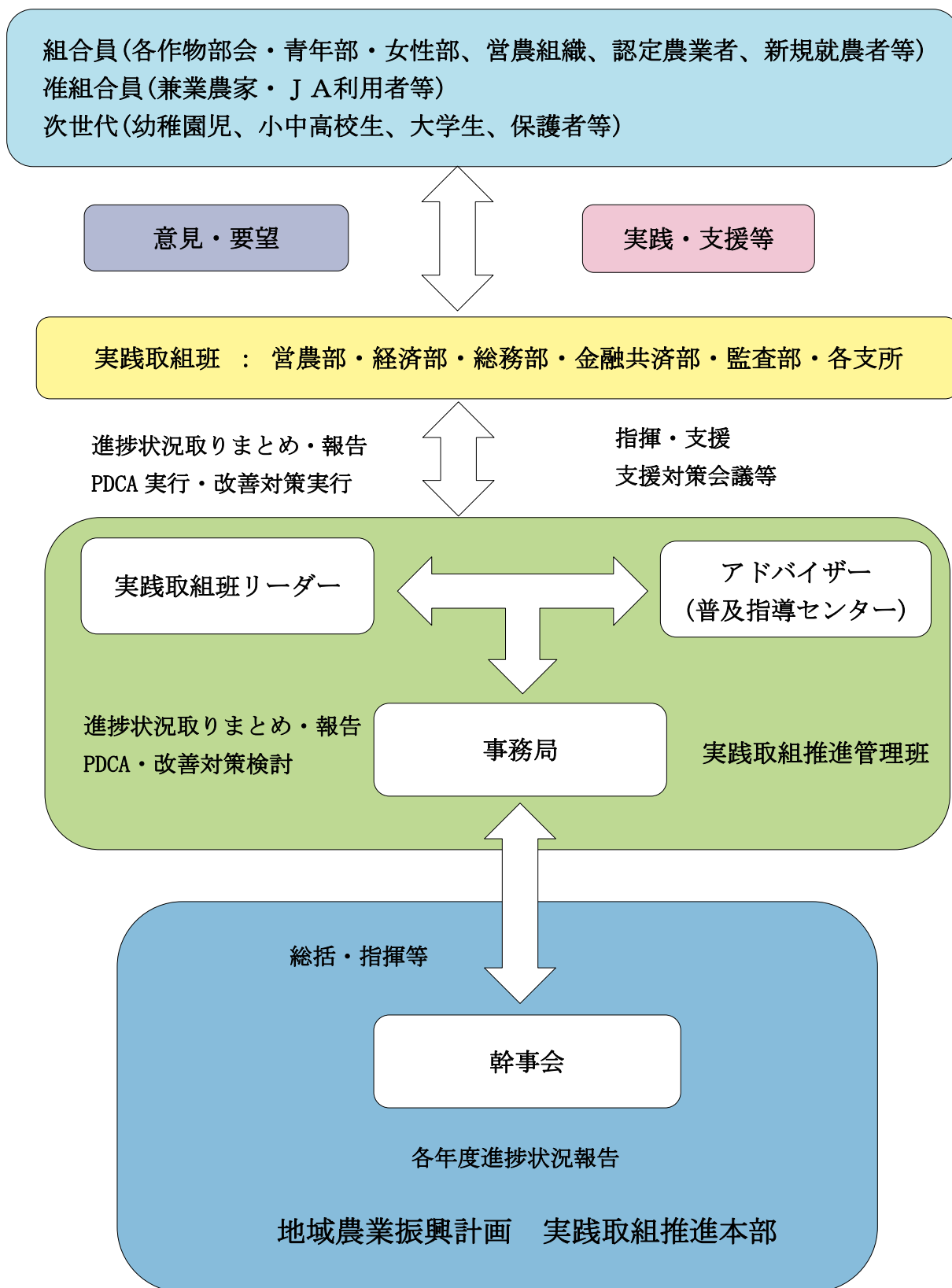
（注）米・麦・大豆関連の交付金は単価に含む。

（注）花きの単位収量は本数表示です。

■ 実践取組体制



実践取組体制



1. 実践取組推進本部

(1) 構成員

実践取組推進本部は、幹事会（JA みなみ筑後 営農部長、経済部長、金融共済部長、総務部長、監査部長、瀬高支所長、銀水支所長、みやま・大牟田市農林水産課長、南筑後普及指導センター課長）によって構成する。

(2) 事務局

事務局は、営農部 担い手支援課が担う。

(3) 任務

実践取組推進本部は、目的を達成するために次の事項を行う。

- ① 『地域農業振興計画』の実践目標の設定とその方策の決定
- ② 『地域農業振興計画』の進捗管理
- ③ その他『地域農業振興計画』を推進するために必要な事項

2. 実践取組推進管理班

(1) 構成員

実践取組推進管理班は、実践取組班リーダー(各課長・支所長・TAC 担当等)、事務局、アドバイザー(南筑後普及指導センター地域係、水田農業係、野菜係、果樹係各 1 名)によって構成する。

(2) 事務局

事務局は、営農部 担い手支援課が担う。

(3) 任務

実践取組推進管理班は、目的を達成するために次の事項を行う。

- ① 『地域農業振興計画』の実践に関すること。
- ② 『地域農業振興計画』の各品目・地域ごとの進捗管理
- ③ その他『地域農業振興計画』を推進するために必要な事項

3. 実践取組班

(1) 構成員

実践取組班は、営農部・経済部・総務部・金融共済部・監査部・各支所の職員によって構成する。

(2) 統括者

統括者は、実践取組班リーダー(各課長・支所長・TAC 担当等)が担う。

(3) 任務

実践取組班は、目標を達成するために次の事項を行う。

- ① 『地域農業振興計画』の実践に関すること。
- ② 『地域農業振興計画』の各品目・地域ごとの進捗管理
- ③ その他『地域農業振興計画』を推進するために必要な事項（PDCA 実施）

※この取組方針に定めていない事項については、実践取組推進本部にて協議決定を行う。

部 署 名	主 な 担 当 業 務	連 絡 先
担い手支援課	地域農業振興総括、農政活動、補助事業事務、担い手育成（認定農業者・法人・集落営農組織等）、青色申告（全地区）、青年部事務局、女性部組織事務局、需給調整関係、経営所得安定対策	TEL: 63-8858 FAX: 63-8828
農畜産課	米・麦・大豆・畜産の生産指導、集荷、保管、販売、農産物検査、鳥獣害対策、部会組織事務局	TEL: 63-8814 FAX: 63-8828
園芸課	野菜・花き生産指導及び販売、部会組織事務局、野菜・果樹等の精算業務、直売所（愛菜館）	TEL: 63-8815 FAX: 63-8828
直販課	愛菜館、6次化商品開発	TEL: 55-2282 FAX: 55-2283
経済課	農業生産にかかる各種生産資材類の供給	TEL: 63-8861 FAX: 63-8828
農機車両燃料課	農業生産にかかる各種農機類・各種燃料類の供給	TEL: 22-2049 FAX: 22-2581
瀬高支所	地区組合員管理、貯金業務、地域農事組合支援、農政連活動支援、地域ファンづくり活動等	TEL: 63-8808 FAX: 63-8820
南瀬高支所	”	TEL: 63-2241 FAX: 63-3342
東山支所	”	TEL: 63-2111 FAX: 63-7777
山川支所	”	TEL: 67-1212 FAX: 67-0167
高田東部支所	”	TEL: 22-6350 FAX: 22-3167
二川支所	”	TEL: 22-5721 FAX: 22-3341
銀水支所	”	TEL: 56-8900 FAX: 56-8907
上内支所	”	TEL: 58-0106 FAX: 58-0170
三池支所	”	TEL: 56-8901 FAX: 56-8902
唐岬支所	”	TEL: 52-4536 FAX: 52-4552



〒835-8501

福岡県みやま市瀬高町下庄 744 番地の 1

TEL(0944)63-8800(代) FAX(0944)63-8818

<http://www.minamickg-fk-ja.or.jp/>